

令和2年度都城市立西小学校学校評価書

1 学校の教育目標

- 豊かな心と自ら学ぶ意欲をもち、積極的にねばり強くがんばる児童の育成

2 学校経営ビジョン

| | | | |
|---|--|--|--|
| <p>「教育は人をはじめとする環境なり」を基本理念として、教育者としての自覚と責任をもち、児童の実態及び保護者や地域の願いを十分に把握し、</p> <p>① 確かな児童理解に努め、「チーム西」で校風を醸成する学校経営</p> <p>② 教育活動の一步前進に努め、「目指す児童像」の具現化を図る学校経営</p> <p>③ 家庭・地域との連携に努め、信頼関係を築く学校経営</p> <p>④ 三校（西中、明和小、西小）の連携に努め、小中一貫教育の結果を出す学校経営</p> <p>⑤ 働き方改革を推進し、居心地のよい職場を実現する学校経営 を推進する。</p> | | | |
| <p>【確かな学力向上対策の推進】（知）</p> <p>1 基礎的・基本的な内容の習熟と実態に即した発展的な学習内容への積極的な取組</p> <p>2 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善</p> <p>3 保護者との連携を密にした家庭学習の充実</p> <p>4 生涯読書活動の推進</p> | <p>【心の教育の充実と積極的な生徒指導の確立】（徳）</p> <p>1 基本的な生活習慣の確立</p> <p>2 生徒指導の三機能を生かした教育活動の展開</p> <p>3 他校（さくら聴覚支援学校、吉之元小、西岳小）との交流活動の推進</p> <p>4 西小のよい校風（西風）の醸成</p> | <p>【生命尊重を基盤とした体力の向上・健康的な生活習慣の確立】（体）</p> <p>1 体力向上プランを基にした体育の時間の指導の充実と日常的な運動の推進</p> <p>2 家庭と連携した健康的な生活習慣（早寝早起き朝ごはん）の確立及び安全意識の醸成</p> <p>3 家庭と連携した食に関する指導及び立腰指導の推進</p> | <p>【地域との連携による開かれた学校づくりの推進】（ふるさと教育）</p> <p>1 情報提供の充実（HPの積極的更新と学校便りの定期的発行）</p> <p>2 学校運営協議会の機能充実</p> <p>3 三校（西中、明和小、西小）及び地域関係団体との積極的な連携強化</p> |

3 達成状況評価基準

- 5段階評価 … A (100～80%) B (79～60%) C (59～40%) D (39%未満)

※ 到達度は教職員と児童の到達度の平均

4 自己評価結果

| 評価項目 | 評価指標 | 自己評価項目 | 到達度 (%) | 評価 | 総合評価 | ◇成果 ◆課題・改善策 |
|-------------|---|-----------------------------------|---------|--|------|---|
| 学力の向上 | ○ 基礎的・基本的な内容の習熟と実態に即した発展的な学習内容への積極的な取組 | ・ 学習事項の習熟や定着の時間を確保している。 | 94 | A | A | ◇ web 学習単元テスト等の習熟プリントを活用した。今後も習熟プリント等を活用し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っていく。 |
| | ○ 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善 | ・ 児童が学び合う指導過程を工夫し、分かる授業に努めている。 | 95 | A | | ◇ 今年度は、児童の思考力を高めるための授業改善チェックポイントを活用した。児童が自分の考えをもち、それを友達と伝え合いながらさらに考えを深められるような、よりよい授業づくりを進めることができた。 |
| | | ・ 基本的な学習習慣の確立に努めている。 | 89 | | | |
| | ○ 保護者との連携を密にした家庭学習の充実 | ・ 家庭学習の充実に努めている。 | 80 | A | | ◆ 年度初めの休校の影響で、家庭学習の方法等について十分に周知を行うことができなかった。学級通信で模範となるノートの紹介をするなどして、家庭学習の充実に努めていく。 |
| ○ 生涯読書活動の推進 | ・ 読書活動の推進と語彙力の向上を図るため、学期目標冊数以上の達成を目指している。 | 74 | B | ◆ 学校図書館の貸出冊数については、全体としては目標を達成しているが、個人差があることや、家庭を含めた読書の日常化が課題である。読書月間や読書週間の取組だけでなく、普段から児童が読書に親しめるような取組を工夫・改善していく。 | | |
| 心の教育の充実 | ○ 基本的な生活習慣の確立（西小のよい校風「西風」の醸成） | ・ 「いじめ0」「気持ちのよいあいさつ・言葉遣い・態度」「けじめ」 | 94 | A | A | ◇ 「いじめ0」については、心のアンケートを見る限り達成されている。今後も観察を続け、情報交換を行うことにより、いじめを未然に防いでいく。 ◇ 「けじめ」について、授業開始2分前着席等、時間のけじめはついている。 ◆ 「あいさつ」は学校ではできているが、地域ではあまりできていないので、日常的によりあいさつができるように指導していく。 ◆ 「けじめ」について、廊下歩行等、場所のけじめがつかないところがある。全職員での共通指導を行い改善を図る。 |

| | | | | | |
|---------------------------|--|--|----|--|--|
| 心の教育の充実 | ○ 生徒指導の三機能を生かした教育活動の展開 | ・ 「道徳科」における体験学習の指導や方法の工夫改善を図っている。 | 75 | B | ◆ 道徳ノートの活用等、道徳科の指導方法の工夫・改善を行っているが、学習内容によって体験学習を設定していない時間もあるので、評価の数値が低くなっていると考えられる。今後も、学習内容に応じた指導方法の工夫・改善を図っていく。 |
| | ○ 他校（さくら聴覚支援学校、吉之元小、西岳小）との交流活動の推進 | ・ 同学年や他学年、交流学級の友達との交流活動を通し、互いを尊重しながら共生することの大切さを実感できる児童を育成している。 | 87 | A | ◇ 校内における学級・学年間の交流や、特別支援学級と交流学級の交流は行うことができている。 ◆ 他校との交流については、コロナの影響により中止となり、実施できなかった。来年度の計画には入れる予定である。 |
| 命を守る力の向上 | ○ 体力向上プランを基にした体育の時間の指導の充実と日常的な運動の推進 | ・ 体育の時間の運動量の確保に努めている。 | 92 | A | ◇ 体育専科が、用具や場の準備を事前しておくことによって、授業での運動量を十分に確保できた。 ◇ 昼休みの体育館開放等、様々な取組を行うことで、児童の運動に対する意欲を高めることができている。 ◆ 外遊びが好きな児童と、そうでない児童の差がある。決まった遊び方だけでなく、新しいいろいろな遊びを教えたり、経験させたりすることが必要。 |
| | | ・ 日常的に運動意欲が高まるように声かけや環境整備に取り組んでいる。 | 82 | | |
| | ○ 家庭と連携した健康的な生活習慣（早寝早起き朝ごはん）の確立及び安全意識の醸成 | ・ 家庭と連携した健康的な生活習慣の確立に努めている。 | 72 | B | ◇ 学校保健委員会では、保護者と6年生児童を対象に講演会を行い、睡眠の大切さについて理解を深めることができた。 ◆ コロナの影響で、学級懇談等保護者と直接関わる機会が少なく、健康や安全に関する連携を十分にとることができなかった。様々な家庭環境の児童がいるので、呼びかけの方法を工夫していく必要がある。 |
| | | ・ 家庭と連携した安全意識の確立に努めている。 | 81 | | |
| | | ・ むし歯の治療率70%を目指している。 | 73 | | |
| ○ 家庭と連携した食に関する指導及び立腰指導の推進 | ・ 家庭と連携した食育指導に取り組んでいる。 | 62 | B | ◆ 2学期の遠足の日に「弁当の日」の取組を行ったが、5・6年生は宿泊学習や修学旅行で取り組ませることができなかった。 ◆ 家庭での立腰の指導は難しいが、食事中や学習中等、場面を限定することにより、少しでも家庭に広げていきたい。 ◆ 家庭によって学校への協力や取組に差がある。ホームページを活用するなどして、家庭への呼びかけの方法を工夫していく。 | |
| | ・ 家庭と連携した立腰指導に取り組んでいる。 | 62 | | | |
| 地域との連携充実 | ○ 情報提供の充実（HPの積極的更新と学校便りの定期的発行） | ・ 地域の方へ積極的に教育活動の公開に努めている。 | 31 | D | ◇ 学校安心メールへの登録者をほぼ100%にすることにより、学校からの情報を迅速かつ効率的に提供できた。 ◆ ホームページの活用ができていなかった。誰が、いつ更新する等校内での担当や役割分担を明確にし、積極的に学校の情報公開に努めている。 |
| | ○ 学校運営協議会の機能充実 | ・ 地域素材・人材の積極的な活用を図り、教育効果を高めている。 | 60 | B | ◇ 4年生のサツマイモ栽培やねったぼづくり、5年生の田植えや稲刈り、6年生の平和学習等、できる範囲での地域学習を行うことができた。 ◆ コロナの影響で、中止になった行事や活動等もあり、例年どおりの地域素材や人材の活用ができなかった。状況に合わせて、できる範囲での交流を積極的に行っていきたい。 |
| | ○ 三校（西中、明和小、西小）及び地域関係団体との積極的な連携強化 | ・ 横市地区小中一貫教育推進会議で取り決めた「共通実践事項及び具体的取組」について、意識して積極的な推進に努めている。 | 57 | C | ◇ 三校合同での研修会はできなかったが、それぞれの学校で共通実践事項を確認し取り組むことができた。 ◆ 年度が変わった際の新しい学校職員や保護者への周知が課題である。年度の初めに、学校経営の取組の一つとして職員や保護者に対して確認を行う。 |